

倶知安町 三好農場の経営概要と麦作り

～入手可能なデータをフル活用した良質麦の安定生産を実践～

1 市町村の概要

倶知安町は北海道西部の後志地方にあり、南に羊蹄山、西にニセコ連峰がある小盆地に位置しています。

冬は年間平均10mの降雪量と、2m弱の最深積雪を観測するなど、日本でも有数の豪雪地帯で、近年ではスキーなどを目的とした海外からの観光客が多数訪れています。

春から夏にかけては温暖で晴天な日が多く、古くから生食用ばれいしょの産地として知られており、ばれいしょをはじめ小麦、豆類、てんさいなどを栽培する畑作経営を中心とした農業が盛んです。



三好紳仁さん

2 三好農場の経営概要

表1 経営概要・輪作体系

家族構成	経営規模		左の内借地面積	輪作体系					輪作の特徴
	水田	畑		平30	令元	令2	令3	令4	
総人員 2人	—	28.96ha	4.3ha	ばれいしょ	春小麦	てん菜	小豆	秋小麦 ばれいしょ	4年輪作の 完全実施
稼働人員 2人	作付合計 28.96ha		4.3ha						

表2 三好農場の作付構成

作物名	作付面積 (ha)
秋まき小麦	2.98
春まき小麦	4.28
ばれいしょ	7.50
てん菜	7.15
小豆	7.05
合計	28.96

三好農場は経営面積約29ha、倶知安町瑞穂地区で秋まき小麦、春まき小麦、ばれいしょ、てん菜、小豆を作付けする畑作経営を営んでいます。

現在、三好さんは家族2名で農場を運営しており、家族労働力を中心とした経営となっています。

3 秋まき小麦の生産状況

表3 最近3か年の秋まき小麦の生産状況

年産	小麦品種名	小麦栽培面積 ha	麦作率 %	10a当たり収量		上位等級 生産量 kg	左の等級別 検査数量 kg		左の1等 麦比率%	規格外 を含む 総収量 kg	総収量 に対する1等 麦比率%
				農家単収 kg	統情単収 kg		1等	2等			
令和3年	きたほなみ	3.11	10.7	709	452	22,054	22,054	0	100	23,079	96
令和4年	きたほなみ	3.14	10.8	550	492	17,828	17,828	0	100	20,321	88
平均		3.13	10.8	630	472	19,941	19,941	0	100	21,700	92
令和5年	きたほなみ	2.98	10.3	690	451	20,588	20,588	0	100	21,650	95

表4 品質等測定値 (JAようてい)

容積重(g/斗%)	F.N(sec)	蛋白(%)	灰分(%)
855	408	10.0	1.35

過去2ヶ年の10a当たり収量は、町平均に対して111~156%と高水準を確保しています。令和5年も同様に、10a当たり収量は町平均を大きく超えています。

4 技術の内容

表5 技術内容

は種			土性	施肥(kg/10a)				根雪始 (月/日)	雪腐防除	
期 (月/日)	量 (kg/10a)	方法		区分	窒素	リン酸	加里		時期 (月/日)	時期 (月/日)
9/30	11kg/10a	12.5cm 畦幅	火山性土	基肥 苦土炭カル BB256CuCR	13.2	9.0	3.6	9/29 9/30	11/5	モンカットペフラン フロアブル ランマンフロアブル
				追肥 硫安	8.4			5/4		
除草剤散布		融雪促進		融雪期 (月/日)	病害虫防除 (植物成長調整剤を含む)			備考		
時期 (月/日)	剤名・散布量	時期 (月/日)	資材名散布量		対象病害虫名	時期 (月/日)	使用薬剤・散布量			
10/11	ボクサー 400ml/10a			4/8	赤さび病	5/27	ミリアアフロアブル	4000倍		
5/23	MPCソーダ塩 300g/10a	-	-		アブラムシ類	6/14	エルサン乳剤	1000倍		
					赤かび病	6/14	ハライカ水和剤	500倍		
					赤さび病	6/21	ミレビースフロアブル	1500倍		
					赤かび病	7/3	シルバキョアフロアブル	2000倍		
					アブラムシ類	7/3	スミチオン乳剤	1000倍		

5 技術の特色

(1) 排水対策

春の植付作業前や、秋まき小麦のは種前の心土破碎など、排水対策を万全に行っています。

また、各品目の収穫が終わったほ場では、積雪前に必ずサブソイラーを施工しています。近年は、プラウを秋に施工して春先の土壌物理性の向上に努めています。

(2) 輪作体系

耕地面積が少ない中で、秋まき小麦の他、春まき小麦、ばれいしょ、てん菜、小豆を作付けしています。秋まき小麦と小豆は6年に一度の作付けであり、土壌病害等の回避と効率的な作業体系を実現しています。

(3) 土壌分析に基づく施肥と土づくり

定期的に土壌診断を実施し、分析結果を参考にほ場の特徴を考慮して適正施肥を行っています。

(4) は種

ばれいしょ収穫後、サブソイラー→スタブルカルチ→ロータリー1回→ドリルは種の手順で仕事をしています。ロータリーのかごローラーはバネを強めに設定し、ドリルが沈まないように工夫しています。起生期に十分な生育量を確保できるよう、は種時期、は種量を決めています。

(5) 生育を観察しながらの追肥

融雪後、すぐに追肥が行えないほ場もあるため、緩効性の基肥を使用しています。生育状況を確認しながら、ほ場条件を鑑み追肥を行っています。遅れ穂が出ないように、起生期の茎数が少

ない場合は後半の追肥を控えています。

6 経営上の特徴・工夫など

(1) 低コスト化への努力

大型のトラクターを極力使用せず踏圧軽減に努めており、同時に機械導入コストの低減、また共同乾燥調製施設の利用による省力化及び低コスト化を図っています。

(2) 入手可能なデータ、情報をフル活用

農協から、生産物の出荷数量・品質分析結果が毎年フィードバックされますが、その結果を生産履歴と照らし合わせ、次年度の栽培管理に反映させています。また、栽培講習会等に積極的に参加するほか、各方面からのデータや情報を入手し、常に栽培技術向上に努めています。

執筆者名：後志農業改良普及センター 地域第一係 深尾伸一
JA ようてい 営農経済事業本部 営農推進課 係 渡邊任頭